



発行責任者 柳 利夫
 住所 東村山市萩山町5-6-26-301
 Tel. 0423-92-8808
 編集者 川村 英明

あらためて見直そう コートづくりについて

協議会・会長 柳 利夫

8月1日付の本紙No. 4でご存知のように、さる7月期から83名の新会員を迎え、全体で330余名の仲間たちが毎週の定期練習日に顔を合わせるようになって4箇月余が過ぎてきました。

この間には市テニス連盟をはじめとした公的行事が入りましたが、これまでの懸念のひとつであった「ジュニア教室=コース」をはじめ、新しい企画が実施されつつあることは、会員の皆さん共々に拍手したいと思えます。これからも定期の練習内容や運営方法などについて、さらに工夫をくわえて新機軸とはいかないまでも鮮度を保ちながら、東村山にふさわしい私たちのテニスの歴史をつくっていきたいと思えます。

それにつけてもここ一年間位のコートでの雰囲気がちよっと気になります。例えば「クラブ創立間もない頃からお世話になっているが、年令の故か・身体の調子悪く、技量の方は相変わらずさっぱり、それでもコートへ行くと気晴しになり、練習しに行くというよりむしろ仲間たちの顔を見ながら球を拾うのが楽しみでした。それにつけても最近ではコートで順番を待っている間にボールを一つでも多く……と思い、拾ってコートの列へ行くと後にいた人達がさっさと前に入り……、自分がコートに来ているのが邪魔にでも……、いっそう辞めようか……」。これは、それともなしにある会員から入ってきた言葉でした。

入会したからには、確かに技術的に少しでも早くうまくなりたい……>と思い、行動したい気持ちは判ります。しかしバランスをくずしてしまうと、本当のテニスでの仲間づくりやテニスの組織づくりの面から大変なマイナス要因になってしまいます。現に、何時の間にかひょっこりコートで見かけたかと思うと、気がついた時には既に帰ってしまっていたという人も何人かいます。また、毎回全員が手分けしてのコート予約の場合でも ① 受付時間に行っていない者 ② 予約当番そのものを忘れてしまっていた人が最近出てきています。

私たちのクラブは、再三申しあげているように、会員の一人一人がクラブの組織者であり、クラブの運営者であり、私たちのクラブにはお客さんは入会していないはずで

入会当初のクラブの約束事を忘れていた方はぜひ思い出していただきたいと思えます。

来年の一月からは、さらに新入会員が増えます。

いつまでも楽しいクラブであり、いつでも行きたいコート・無理してでも出たいコート雰囲気づくりに、クラブ創立6年半たった現在、皆さんも一緒に普段から心掛け・努力していただきたいと思えます。

市民テ 定期練習の一部改訂 土曜日の午前もコート3面利用

東村山市民テニスクラブ協議会も総勢300名を越える大所帯となり、定期練習に参加される人数も100名以上という盛況にあります。

然し乍ら、一概に大所帯、盛況であると思えば喜んでは居られません。5面のコートでクラス別の練習はされているもののボールを打つ時間と、待っている時間とのアンバランスが現実の問題として「何とかならないか」、「もっとボールを打ちたい」、等々諸々不満となっているのが実情であります。

又、12月は新入部員の受付月となり、恐らく50~60人の入会希望を受けることが予想され、こうした不満が一層倍加されることとなりましょう。

こうした問題をどの様に解決するかを考えた結果、物理的にコートが10面という東村山市の現状から見て、次の様に実施するようにいたします。これで全面的に解決する訳ではありませんが、一歩前進をと期待しています。

市民テ定期練習	土曜日	8時~13時	久米川コート	3面
		13時~17時	〃	5面
	日曜日・祝日	8時~12時	〃	5面
		第1・第3日曜日	13時~17時	運動公園コート

- (1) 12月度より上記の通り定期練習スケジュールとします。コートとりの担当者は間違いない様にして下さい。
- (2) 土曜日の午前中の練習は自主練習となります。クラス別による練習は之迄通り14時から行ないます。
- (3) 第1・第3日曜日の午後のコートのうち、1面は技術部員研修用として使用いたします。
- (4) 最近では企業の週休2日制が可成り定着したものとなり、従って多数の方が積極的にコートに出られる様おすすめていたします。

ジュニアの練習時間が変わります

11月11日の早朝練習を最後にジュニアの早朝練習はなくなり、次の時間帯に練習します。

- (1) 日曜・祝日の朝7時45分に集合、準備体操、8時から9時30分まで練習。
- (2) コートは⑤番コートです。中級Bの方は9時30分までは④番コートで練習して下さい。
- (3) 11月11日以降、ジュニアの父母会を持ちたいと思えます。お気付きの臭など整理しておいて下さい。場所・日時は追ってお知らせ致します。

柏崎市選手団を迎えて 親善試合を計画

来る11月10日(土)、11日(日)の2日間、東村山市に新潟県柏崎市より選手団が大挙して上京されます。

これは既に皆様のご承知の通り、東村山市と新潟県柏崎市との間で結ばれている「スポーツ姉妹都市」の関係の中から、硬式庭球を通じて友好親善の実をあげるべく、太田杯両市対抗親善テニス大会の形で実施しているもので、今回で第3回の大会になります。

第1回大会は昭和52年11月、東村山に柏崎市の選手団を迎えて実施されました。

第2回大会は昨年、東村山市が柏崎市へ選手団を派遣して実施されました。

第3回大会で、東村山市に柏崎市の選手団を迎えるに当り、東村山市民テニスクラブ協議会は心より歓迎の意を表することは当然のことですが、具体的に次の様な行事を組み込むことを決定いたしました。会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

柏崎の選手団は11月10日(土)、早朝に柏崎市を発ち、東村山市到着はお昼過ぎになるかと思われれます。到着後は本大会への肩ならしと、併せて当東村山市民テニスクラブ協議会を介しての親善を含めて、我々の土曜日の定期練習のコート(久米川コート)に入って戴くことにいたします。市民テの人達と一緒にペアを組み、試合をしたり、応援をしたり、四方山のお話をしたり、楽しい午後を過ごして戴きたいと考えます。

テニスの方の腕は柏崎市の代表選手ですから、当然我々よりは格段に上手ですが、勝ち負けでないテニスを通じた心のふれあいみたいなものを掴んで欲しいものと願っています。

私達が日頃なじんでいる同じコートの上で、背のびをしない、本当の意味での親善をと考えます。

具体的な運営は、東村山市民硬式庭球連盟でセットいたしますが、東村山市民テニスクラブ協議会の皆様の積極的な参加と、協力を是非共お願いいたします。

〈右側下よりつづく〉

間の取り方、リラクスの必要性、塩分を補給した方が良かった事など体調に関する事、又戦術としてはバックばかり攻めずにフォアのクロスをもっと使うべきだった、そういう時ポイントをとっていた等々、私としてはフォアに持っていくと決められてしまうような気がして避けていたのだけれど……。それからドロップショットの問題、ゆるいボールをミスした事へのアドバイス etc. etc. 一つの負け試合は沢山のアドバイスを、また学ぶ事も山程ある。私には成程と思われることだらけだ。勝者の吉沢さん(桜台ク)は、毎日7Kmも走っていると言う。何と私より年上なのだそうだ。大きく若く見えるのに。今はまだ大試合の後で食傷がみだけれど、疲れがとれたらこの数々の教訓を生かして、夏の毎日トーナメントに備えたい。早速、今朝から7キロまではちょっと及ばないが、2キロを走り出した。

No.30 女子連シングルスに準優勝して 8月18号 よりつづく

—その2—

恩多クラブ 武谷 千枝子

いよいよ決勝戦となってしまった。やはり前日は10時に床に就いたのに、午前2時まで悪戦苦闘、鎮静剤などはトンと効かず、むずかしい本にはますます目が冴えてしまった。決勝戦での相手は、埼玉県大会、中部地方の大会での優勝者という事で、鬼に角よく走りよく拾うという評判の人だった。1セット目は、私も今までと同じ戦術で一本一本を丁寧に返していた。しかしフォアに甘いクロスに決められてしまう。バックはスライスで、ゆるいが深く深く返球される。相手と同じペースだとむしろの方がミスが少ないので、どうしてもポイントにならない。長いジュースの末もゲームをとられてしまう。それでは1セット目の後半はもっと積極的にやってみた。押した時は前にも出たりした。しかし1セット目は様子を見るのに時間がかかりすぎ、積極的にになった時はもう1-5とリードされていたので2-6でそのセットは落してしまった。こういう競り合う相手の時はあまりリードされてからでは挽回がむずかしい。2セット目は積極作戦が効を奏して6-4で私が取った。しかしチャンスで前に出ると上手なロブで後に下がらせられ、又それを必死に追いかけてというような事が何回もあり長いゲームとなった。いよいよ3セット目、長いラリーが続く。応援の人が数えたら36本も続いたそうだ。バック、バックと攻めチャンスをじっと待つ。相手も少しはミスをし出す。時々積極的に攻め、さあオールだ。私のサーブだ。調子も大分出て来た、積極的にいこう。思い切ってファーストをエイッ!

そのとたん、足が痙攣した。これはいけない、と足を屈伸すると両足のあちこちの筋肉がフリ出した。全々足がふんばれない。手だけでサーブをする形となり、なんと4本続けざまにダブルフォルトしてしまった。チェンジコートの時長ズボンを履こうとしたら、あちこちの筋肉がフリ出してズボンを履く事も出来なくなってしまった。仕方なくそのまま続行する。少し動こうとするとそのふんばった筋肉がつる、両足にはこんなに何種類も筋肉があるのかと改めて思い知らされる程だった。とうとう足の甲の筋までつって来た。もう全々動けない。またたくうちに3-5、泣きたい気持だった。もう手だけでチョロンチョロン、長いラリーが続く。サーブも上からは出来なくなった。仕方なくアンダーサーブ、何年ぶりのアンダーサーブだろう。相手も疲れているのか甘いボールでもそう決まってこない。チョロンチョロンでも一つとれて4-5となったがそれまで。4-6でやっと長い長いゲームから解放された。2時間15分。

終わったら応援に来ていて下さった友人がかけつけてくれた。もう全々動けない。本部の人にせがされて、やっと表彰式へ。会長の桑名さんに握手をして頂き準優勝の楯を受け取った瞬間、手の筋肉まで痙攣し指が動かなくなってしまった。終わると皆がいろいろ感想を述べてくれた。やはり体力も試合のうち、今まで体力には自信があり、まさか試合中に足が痙攣するなんて考えてもいなかった。そのへんの経験不足が、今回の敗因だった。しかし私としては決勝までこれたのだから……。という甘えがあったが、誰一人として、そんな甘い事は言ってくれなかった。勝てる試合を落とした事への戒め、体調の整え方、試合途中の

〈左側下へつづく〉

秋季市民テニス大会 試合結果

(続報)

▶男子ダブルス

1回戦

- 桜井・佐藤 (def) 鷺谷・伊藤 (明学中)
- 藤岡・佐藤 (6-7) ○田中・山崎 (日ベル)
- 志賀・守谷 (6-3) 西田・引地 (北山ク)
- 新井・岩立 (6-2) 西田・小出 (明乳)
- 宮崎・山本 (def) 高橋・黒柳 (中道ク)
- 米田・森 (def) ○桜井・桜井 (グリーン)
- 近藤・須藤 (def) ○大和田・須崎 (日ベル)
- 青山・森 (3-6) ○堀田・深沢 (福祉園)
- 本保・増沢 (6-0) 三沢・毛利 (中道ク)
- 杉山・桂 (1-6) ○平木・千葉 (労働保)
- 吉永・亀村 (6-0) 北内・弓場 (日機装)

2回戦

- 高瀬・中沢 (0-6) ○渡辺・平塚 (日ベル)
- 荒瀬・松井 (def) ○田辺・羽田野 (一般)
- 桜井・佐藤 (2-6) ○宗田・大島 (一般)
- 志賀・守谷 (3-6) ○堀沢・関根 (UIク)
- 宮崎・山本 (1-6) ○湯沢・小林 (一般)
- 本保・増沢 (6-1) 平木・千葉
- 吉永・亀村 (3-6) ○高岡・鈴木 (グリーン)
- 三安・森 (def) 石井・鈴木 (明学中)
- 高橋・儀間 (def) 平野・伊藤 (明学中)
- 米沢・小林 (5-7) ○磯貝・安藤 (明乳)
- 中根・笹野井 (def) 原田・進藤 (明乳)
- 武谷・長井 (def) 小島・杉田 (日機装)

3回戦

- 本保・増沢 (6-2) 堀口・深沢
- 三安・森 (0-6) ○長谷川・松村 (一般)
- 高橋・儀間 (2-6) ○福村・宝徳 (日機装)
- 中根・笹野井 (2-6) ○奥山・丸山 (北山ク)
- 武谷・長井 (6-4) 伊藤・伊藤 (一般)

4回戦

- 本保・増沢 (6-3) 中野・監物 (日ベル)
- 武谷・長井 (6-2) 奥山・丸山

準々決勝

- 本保・増沢 (6-3) 高岡・鈴木 (グリーン)
- 武谷・長井 (6-3) 福村・宝徳

準決勝

- 武谷・長井 (6-3) 本保・増沢

決勝

- 武谷・長井 (2-6) ○石川・迎 (一般)

三位

- 本保・増沢

▶女子ダブルス

1回戦

- 須藤・藤岡 (2-8) ○遠藤・関根 (UIク)
- 石原・武田 (8-0) 鈴木・池田 (一般)
- 吉田・高橋 (2-8) ○水谷・渡多野 (北山ク)

2回戦

- 下谷・栗原 (8-1) 福留・鈴木 (緑風荘)
- 河野・有川 (8-4) 飯岡・山本 (日ベル)
- 八木・田畑 (3-8) ○榎野・北出 (木星会)
- 中村・荒牧 (8-7) 桜井・小林 (グリーン)
- 森・三安 (3-8) ○本戸・松井 (木星会)
- 石原・武田 (8-0) 徳本・桜井 (グリーン)
- 上釜・小林 (8-4) 村山・入江 (北山ク)

- 折橋・渡辺 (def) 白井・奥平 (明乳)
- 山崎・中根 (def) 高橋・加藤 (明乳)
- 木村・宮川 (def) ○川島・久保 (木星会)
- 宮崎・竹内 (0-8) ○坪谷・渡辺 (日ベル)

3回戦

- 下谷・栗原 (8-2) 河野・有川
- 中村・荒牧 (8-7) 遠藤・関根
- 上釜・小林 (6-8) ○石原・武田
- 折橋・渡辺 (8-4) 山田・小幡 (緑風荘)
- 山崎・中根 (5-8) ○水谷・渡多野

準々決勝

- 下谷・栗原 (8-3) 榎野・北出
- 中村・荒牧 (8-7) 三宅・草野 (日ベル)
- 石原・武田 (8-3) 折橋・渡辺

準決勝

- 下谷・栗原 (6-2) 中村・荒牧
- 石原・武田 (0-6) ○坪谷・渡辺

決勝

- 下谷・栗原 (1-6) ○坪谷・渡辺

三位

- 石原・武田, 中村・荒牧

▶混合ダブルス

1回戦

- 米田・下谷 (8-6) 堀沢・堀沢 (UIク)
- 松井・松井 (7-8) ○森・久保 (市民木星会)
- 八木・八木 (1-8) ○丸山・丸山 (北山ク)
- 儀間・高橋 (8-6) 小林・川島 (市民木星会)
- 高橋・樋口 (def) 鈴木・桜井 (グリーン)
- 米沢・山崎 (1-8) ○米田・小林 (市民一般)
- 加藤・有川 (0-8) ○湯沢・桂 (一般)
- 翠川・松本 (def) 黒沢・鈴木 (緑風荘)
- 杉山・宮崎 (5-8) ○筒井・立河 (北山ク)
- 江下・中根 (8-3) 江原・江原 (一般)
- 吉永・木村 (8-2) 迎・迎
- 山本・小林 (def) 引間・小幡 (緑風荘)
- 河野・河野 (5-8) ○磯貝・大赤 (明乳)
- 桜井・桜井 (def) 伊奈・徳本 (グリーン)
- 須藤・須藤 (3-8) ○米久保・米久保 (明乳)
- 藤岡・藤岡 (8-2) 岡部・大松 (一般)
- 中村・中村 (2-8) ○伊藤・湯沢 (一般)

2回戦

- 武谷・武谷 (8-2) 松井・松井 (一般)
- 米田・下谷 (def) 儀間・高橋 (3-8) ○関・加藤 (明乳)
- 翠川・松本 (8-5) 笹野井・柳
- 江下・中根 (def) ○筒井・立河
- 吉永・木村 (8-2) 山本・小林
- 本保・栗原 (8-5) 桜井・桜井
- 藤岡・藤岡 (6-4) 米田・榎野

3回戦

- 武谷・武谷 (6-1) 米田・下谷
- 翠川・松本 (1-6) ○筒井・立河
- 吉永・木村 (6-3) 磯貝・大赤
- 本保・栗原 (6-0) 大赦・石坂 (緑風荘)
- 藤岡・藤岡 (0-6) ○坪谷・坪谷 (日ベル)

準々決勝

- 武谷・武谷 (6-0) 丸山・丸山 (北山ク)
- 吉永・木村 (6-1) 筒井・立河
- 本保・栗原 (2-6) ○坪谷・坪谷

私とテニス < 連載 25 >

私のウインブルトン紀行 ②

青葉クラブ 長谷川 順三

ウインブルドン大会の正式名称は、「THE LAWN TENNIS CHAMPIONSHIPS」。これが「THE ALL ENGLAND LAWN TENNIS AND CROQUET CLUB」で開かれ、その所在地がロンドン郊外、ウインブルドン・パークにあるところから通称『ウインブルドン大会』と呼ばれるようになった。

1877年に第1回大会が開かれて以来、ウインブルドンはいつでもテニスの歴史の中心であり、世界最高のものであり続けてきたのである。

私の七十日間世界一周旅行は、数々のラッキーな恩恵に支えられて無事その目的をはたすことができたのであるが、このウインブルドン観戦もラッキーなプログラムの一つになっている。

なぜ「ラッキー」であるのかを一言説明しておこう。私にとってラッキーであったことは、同時に今大会に出場した日本男子選手達にとっても大変ラッキーであった。それは、開幕直前のATP68選手のボイコット事件。事件の直接の原因はユーゴのニック・ピリッチ選手のデ杯出場拒否、ユーゴは彼の不出場により対ニュージーランド戦を失ってしまったわけで、この時ピリッチは米国のトーナメントに出場していたので、ユーゴ協会としては協会命令を無視したが、この同選手に対して、出場停止処分を決定し、それが全仏大会の最中に伝えられた。

ATP(プロ選手協会)会長のクリフ・ドライスデールは、早速見解を発表し、この処分は不当と認め、何らかの形で抗議をすることを明らかにした。更に全仏の最終日に差し掛かるかのように、今度はILTF(国際庭球連盟)の名のもとに、ピリッチの6月30日までの出場停止処分が発表された。

ATPは、これに対し次のような声明を出した。「トーナメントを選択するのはプレーヤーの自由であり、希望したわけでもないのに協会が勝手にデ杯選手に選定したからといって、デ杯に出場せねばならぬ道理はない、我々はピリッチを守る。」対立は激化の一途をたどり、ATPは処分撤回がなければ出場できないといい、ILTFも硬化、両者は全く平行線をたどり、双方の話し合いも合意に至らず、ついに史上空前のスター選手68人のボイコットという異常事態のまま、本大会は開幕されることになってしまった。

このテニス戦争で本大会(第87回)の男子シングルス優勝者ヤン・マデス(チェコ)としては、心からの喜びにひたれない複雑な心境だったにちがいない。この不祥事があったからこそ、私はラッキーにも大会観戦の恩恵に浴することが出来たのではないかと考えている。

男子シングルスは、総勢128名の選手で争われるが、日本男子では神和住(120)番目のドロウ=がたった1人予選なしで本番出場という資格を持っていた以外、坂井(7)、田辺(69)、九鬼(88)、平井(127)はすべて8つのスポットをめざしてきびしい3回の予選を勝ちぬかなければならず、とくに坂井は予選からだということで大いにショックを受けたそうである。予選を勝ちぬいての本選出場は、至難の技だということを選手自身が一番よく知っているからである。

しかし、ラッキーなことに予選の1回戦で敗退した失格選手も68名のボイコットにより、全員がサルベージされて本番に出られる幸運を手にする事ができた。日本の男子4人の選手もその例外ではなかった。

私はNo.1 COURTで5試合のうち、次の
 ○ K. Wooldridge and Mrs. K. Wooldrige (60) v. S
 A. Metreveli and Mrs. O. Morozova (64) ← 第3シード
 ○ F. A. Sedgman and Miss S. V. Wade (36) v. S
 J. R. Cooper and Miss K. M. Krantzcke (40)
 の混合ダブルスの試合を観戦、両方ともそれぞれ組み合わせの後者のペアが勝ち進んだ。決勝は、デビッドソン・キング組が優勝、キング夫人は17回目の全英タイトルを手にし、単複も制覇3タイトルを独占した。
 紙数の関係で本号はこれで終えることとして、またの機会に、「私のウインブルトン紀行③」をお届けしたい。

(ウラ その3 よりつづく 混合ダブルス)

準決勝

○ 武谷・武谷 (6-2 6-4) 湯沢・桂 (一般)
 吉永・木村 (6-2 6-7)

決勝

○ 武谷・武谷 (6-0 6-3) 坪谷・坪谷
 三位 吉永・木村

▶ 女子シングルス

1回戦

○ 田畑(8-7) 入江(北山7), 藤岡(3-8) ○ 草野(日ベル)
 ○ 武田(8-3) 小島(木星会), ○ 宮川(8-1) 豊山(一般)

2回戦

○ 木村(8-4) 湯沢(一般), ○ 宮川(8-2) 吉永(一般)
 ○ 栗原(8-4) 桜井(グリーン), 下谷(0-8) ○ 坪谷(日ベル)
 ○ 田畑(8-6) 小林, 竹内(2-8) ○ 三宅(日ベル)
 ○ 武田(8-2) 草野(日ベル)

準々決勝

○ 木村(8-7) 栗原, 宮川(4-8) ○ 坪谷(日ベル)
 ○ 田畑(8-6) 武田

準決勝

○ 木村(7-5) 田畑

決勝

木村(7-6) ○ 坪谷(日ベル)

三位決定戦

田畑(7-6) ○ 鎌山(日ベル)

▶ 壮年シングルス

1回戦

○ 八木(8-7) 杉山, ○ 米沢(8-4) 阿辺川
 柳(0-8) ○ エコール(一般)

準々決勝

八木(1-8) ○ 西条(日ベル), 米沢(3-8) ○ 堀沢(U17)
 高瀬(8-1) ○ 市川(日ベル), ○ 横山(8-1) エコール(一般)

三位決定戦

横山(8-1) ○ 市川

▶ 壮年ダブルス

1回戦

浦川・阿辺川(7-8) ○ 村井・佐藤(日ベル)
 ○ 柳・早川(def) 広松・有馬(一般)
 米田・高瀬(5-8) ○ 西條・市川(日ベル)
 ○ 米沢・横山(8-4) 島田・相川(グリーン)

準決勝

柳・早川(3-6) ○ 坪井・篠崎(グリーン)
 米沢・横山(0-6) ○ 西條・市川

三位決定戦

○ 米沢・横山(6-2) 柳・早川